

ヘルスケアは、「患者も含めたチーム医療（総合診療）」

高橋 啓（日本ヘルスケア歯科学会代表）

2024年のスタートから能登半島地震が起こり、波乱の年頭となりました。令和6年能登半島地震に被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

本会へのご要望やお役に立てることがございましたら、事務局までお知らせください。被災地域の方は、最大限の注意を払い、二次災害にあわれぬようにしてください。またみなさんのお知り合いで、被災されている会員の方がおりましたら、事務局までお知らせください。

さて、みなさんは、「ヘルスケアは、患者も含めたチーム医療」と聞いて、どう思いますか？「それは当たり前でしょ」と思う人もいるかもしれませんが、「ん？」と思う人もいるかもしれません。漠然と知っていることを少し整理してみたいと思います。このようなお話をするきっかけは、2023年7月9日に開催された認証ミーティングです。このときに外部審査員の森田夏実さんからのご指摘がありました。「チーム医療の模式図の中に、患者が入っていません。患者も含めたチーム医療を実践しているならば、チーム医療のメンバーに患者が抜けることはないのでは？」というものでした。そのときに会場にいた人は、ハッとさせられたのではないかと思います。わかっているけど、体现できていないこと、常に意識ができていないことになっていたかもしれません。そこで常に意識しておくことの大切さを学ぶ機会となりました。

ヘルスケア診療とチーム医療

ヘルスケア診療においては、チーム医療が大切と常々伝えていきます。診療所単位での認証にこだわるのも、チーム医療を確立するためのものです。そもそもヘルスケア診療は、分業制でそれぞれへ丸投げではなく、連携して医院みんなで診ていくチーム医療の大切さを説いてきました。そうしたことを普段からやっていることがヘルスケアのチーム医療であるはずですが、もっと具体的などころを言うならば

- ・歯科医師と歯科衛生士は、別々の予約で動いているので、チーム連携が必要。
- ・歯科医師担当制、歯科衛生士担当制もあり、複数の予約を管理する受付や歯科助手とも連携が必要。

などが挙げられます。

上記のことは、みなさんが日常でやっていることです。そして、定期管理を通して、患者とコミュニケーションが取れていることも、ヘルスケア診療の特徴かと思います。医療の他現場で、スタッフと患者のコミュニケーションが我々ほど取れているところはあまり見当たりません。そもそも、内科に定期的通院して、担当看護師が1時間対応するようなことはないためです。それゆえ、コミュニケーションの質が変わってくるのです。

ヘルスケア診療は、チーム医療のお手本になり得ると思います。

- ・メンテナンスを通じた強い信頼関係が構築されている。
- ・家族単位で知っていることも多いので、よりきめ細やかな対応ができる。
- ・元気な頃を知っているのです、高齢への変化が分かっている。

（子どもの頃から知っているということも）

このような素晴らしさを日常で行っているのです。これは他科からすると、「とてもすごいことをやっているね」と言われることでもあります。

「患者も含めたチーム医療」を常に意識しよう

チーム医療の分野では、「患者も含めたチーム医療」を全員で常に意識することが言われています。ヘルスケア診療を

2024.2.22

実践する我々も、ぜひ意識しながら前に進みましょう。普段から、患者の意見も取り入れながら、診療を進めていると思うのですが、「患者も含めたチーム医療」をより意識してください。ただ、患者は表在的な希望を伝えがちです。我々は短期的な視点と長期的な視点を持って、その人の患者利益が共有できるような関係を構築できればと思います。

「患者も含めたチーム医療」という観点は、我々にとって日常で、とくに何が？ ということがらではありますが、客観的に医療の世界、介護の世界を見渡すと、ほかにはないものです。そこは、今後もレベルを高めていけたら素晴らしいことです。

最後になりましたが、今年のヘルスケアミーティング2024は、10月13日（日）・14日（月祝）に一橋大学一橋講堂（学術総合センター）で開催されます。今年はとくに、医院みんなで参加して勉強になるような企画を進めています。今から医院の予定に入れてもらえると嬉しいかぎりです。よろしくお願いします。

今年も頑張っていきましょう！